

# 南の風 139

南部ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

138号の続きです。

原田先生のクリニックの内容を紹介します。当日、横浜ミニの指導者が6人参加しました。

まずは、ポストを中心にしたオフェンスでした。当該の中学には、長身の女子プレイヤーがいます。そのポストマンを生かした攻撃の仕方です。都大会の映像を振り返りながら、クリニックが進められました。

まずは、ポストでのボールの受け方とパスの入れ方です。

- 1 ポジション取りで接触を嫌がらない。(ミニの時代から接触慣れすることが必要)
- 2 ターゲットして受ける。ディフェンスがかぶったり、フルフロントにきたりした時の裏空間へのターゲット。
- 3 ローポストでボールが入った時、ストロングサイドへフロントハーフターンから、リバースターンショット。(ポストマンのステップはいろいろあります。今回は、このハーフターンからのリバースターンを紹介されました。)

※このチームのポストマンはかなりスキルが高かったです。従ってミニや初心者には指導の際、プライオリティに気を付けたいと感じました。(自チームの実態を見て取り入れたいです。)  
またディフェンスをシールする時に、そちらに気がいってしまいボールに集中することが疎かにならないことが大切です。

- 4 パスは、空間へのパス(スペース)を強調されました。種類はオーバーヘッドパスでした。  
※ポストへのパスですが、チェストパスは馴染まないということを南の風でも紹介しました。  
距離やスペースによってはループパスやバウンズパスも有効となります。

次に、アングルの取り方と合わせ方です。

- 1 トップから入らない場合は、ウイングがボールミートしてアングルを取りパスを入れます。あるいは、ドリブルでウイングに降りてパスインです。こういう状況判断は、ミニバスのうちからどんどん取り組みたいものです。(基本は直角ポストへのパスインです。)
- 2 合わせ方は、運びからエントリーとも連動しているのですが、ここでは分かり易くするためにポスト同士とします。ローポストにボールが入りそうな場合、(入ってから動いたのでは遅い。)タンデムでもダイアゴナルでも構わないからフラッシュです。実戦では勿論ローポストではなく、直接ハイポストにフラッシュしてくるプレイヤーにパスすることもあります。この辺のことを先生は、「咄嗟の状況判断が大切!!!」と言います。
- 3 ダブルポストの合わせでは、(ローポストに入った場合、)すぐに合わせることを考えてはいけません。まずはリングを見ること。LOOKです。そして自分で攻めることが第1です。

形を追いかけて自分の1対1を忘れてはいけないということです。 次号にします。